

青年の社会化における家族の役割

家族こそ基本的な教育機関であり、人生の基礎的見習期間を提供する。正しい状況の下で、家族は青年がその潜在能力を実現し、社会における成年として有用な役割を引き受ける準備をさせる。しかしながら、今日の青年の年長世代との関係、特に家族との関係は、ますます脆くなっている。青年の社会化はもはや、受け入れられている価値および姿勢を単に伝達するものではない。

各人の人生は、文化的規範・価値と社会的相互作用により形成される。家族はこの過程の中核にあり、青年の社会化の基本的責任を負う。各人の初期学習は家族内で、家族成員の関係において、より大きな世界を恒間見ながら、また各家族成員の内的世界に対応しながら行われる。

「学習は生まれたときから始まる」ことは明白な概念である。誕生から6歳までの期間は知性、人格および社会的行動の形成においてきわめて重要であることが確認されている。子どもの自己理解と自尊心が確立されるのは、家族においてである。人生の初期に生じる学習は、後の生涯を通じての学習を高めるか、または障害となるであろう。

伝統と変化

家族は社会的および文化的価値を伝達する責任を負う。伝統は家族において学習され、強化され、世代間で伝えられる遺産の大きな一部である。

同時に、家族は強力に新しいことを進めていく主体である。既存の知恵に挑み、知識を広め、既存の制度の機能を吟味することにより、社会を再生し、変化させる。この観点から、家族は建設的な変化と開発の主要な主体である。

家族の全成員は、互いに複雑な影響を及ぼす。親の人格に対する子の行動の影響も忘れてはならない。子もまた親を様々に社会化する。親は子から、子どもの発達、仲間・兄弟姉妹との関係、学校、ファッションおよび社会変化について学ぶ。子どもは学校、仲間およびメディアとの接触を通じて、新たに現れる傾向の担い手をつとめる。特に、移民および難民の親はしばしば、新しい国の言語、習慣および文化を子から学ぶ。

家族と教育

現代社会で、家族は教育における基本的役割を演じてきた。教育は全個人の不可欠な権利であるという考えに対する支持が強まっているにもかかわらず、親の決定は、子どもが公式または非公式に受ける教育の量と質を決定するうえで中心的役割を演じつつけている。

親の経済状態、親の社会的伝統、近代化勢力への親の接触の度合、学校教育の重要性に対する親の理解の水準、そして教育を与えるべきであるという価値観に対する親の全般的姿勢などが、これらの決定において役割を演じる。

教育が高く評価されている文化では、安定した家族システムが主に、子どもが教育を受けるよう奨励する。対照的に、いくつかの国での教育達成の衰退は、家族援助システムの衰退に一部起因している。

家族は、また、あらゆる個人の人権への尊重を教える基本的メカニズムともなりうる。しかし、社会問題、搾取および虐待といった否定的状況も、しばしば家族内に存在する。したがって、基本的人権および基本的自由に一致した家族および家族内関係に関する認識の発達を促す必要がある。

家族への課題

家族の内部と周囲で生じているきわめて大きな変化は、青年の早い社会的成熟、青年が家族から独立して収入を得られること、そして青年文化の発達と相まって、社会化過程における家族の影響を大幅に低下させた。学校、仲間集団およびテレビは、社会化機能において家族と拮抗している。

同時に、新しい教育技術、特に学校および大学でのコンピュータ科学とコンピュータ支援指導法の導入は、ますます増えつつある多様な視聴覚機器およびプログラムとともに、学校生活での社会化過程を変化させており、それはまだ模索中である。

これらの変化はしばしば非常に急速であるため、親は子の教育経験を確認することができない。親は次に、変化した流動的な教育環境で子の教育において支援的役割を演じようと試みる厳しい課題に直面する。

もう一つの課題はひとり親についてのものであり、これはしばしばもう片方の親または国の援助なしで、親が子に食べもの、住居、教育、そして情緒的援助を与えるという大きな負担を課している。

多くの国が現在直面する財政危機は、家族および教育に対する国の確約の範囲を制限している。しかし、財政困難の時期においても、教育は子どもと社会の将来を構築する主要手段であるため、確約を削減するのは近視眼的であろう。

国連はこうした問題にますます関与しており、例えば、特に開発途上国の政府が家族の社会化機能を支える措置を含む国家政策を策定することを援助している。

国連発足50周年目に当たる1995年には、社会的領域で三つの大きなイベント、すなわち、社会開発のための世界サミット、第9回犯罪防止および犯罪者の処遇に関する国連会議、第4回世界女性会議が開催される予定である。同年はまた、国連により1985年に実施された国際青年年の10周年に当たる。1994年の国際家族年に続いて、1995年は国連に、青年の問題に対処する多くの組織との協力で、青年に対する関心を高めるために既存の全世界的活動を評価し新たな活動を開始する一層の機会をもたらすであろう。